

>> 平成29年度教育学研究科(教職大学院) 在籍者数

入学年度	プログラム	学卒院生	現職院生	合 計
平成28年度	学校マネジメント力開発		3	3
	授業力開発	7	3	10
	子ども支援力開発	2	1	3
	特別支援教育力開発	0	1	1
	小 計	9	8	17
平成29年度	学校マネジメント力開発		3	3
	授業力開発	9	3	12
	子ども支援力開発	0	1	1
	特別支援教育力開発	1	1	2
	小 計	10	8	18
	合 計	19	16	35

>> 教育学研究科(教職大学院) 専任教員

研究者教員	実務家教員
遠 藤 孝 夫	高 橋 和 夫
立 花 正 男	小 岩 和 彦
鈴 木 久米男	東 信 之
山 本 奨	多 田 英 史
田 代 高 章	紀 修
藤 井 知 弘	森 本 晋 也
清 水 将	大 谷 哲 弘
佐々木 全	

>> 教育実践研究テーマの例

- 学校マネジメント力開発プログラム**
 - [いわての復興教育]の推進に関する研究～地域学習に視点を置いたカリキュラム・マネジメントをととして～
 - ミドルリーダーの役割を生かした学校運営の充実～主幹教諭に視点をあてて～
 - 高等学校における教員研修の現状と活性化の手立て～盛岡地区高等学校への質問紙調査と実践から～
- 授業力開発プログラム**
 - 社会的な見方・考え方を働かせ社会参画意識を育てる小学校社会科授業の在り方
 - 地域教材を活用した小学校歴史授業の研究～岩手県の地域史教材を通して～
 - 中学生の学習における振り返り活動のありかた～授業と家庭学習の有機的なつながり～
- 子ども支援力開発プログラム**
 - 学校生活における異年齢集団活動が自己有用感へあたえる影響
- 特別支援教育力開発プログラム**
 - 知的障害教育における児童生徒主体の授業づくりはどうあるべきか



交通案内(盛岡駅から)

■バス利用

盛岡駅前バスターミナル11番のりば
 岩手県交通バス 駅上田線
 乗車-「松園バスターミナル行き」
 下車-「岩手大学前」
 岩手県交通バス 駅桜台団地線
 乗車-「桜台団地行き」
 下車-「岩手大学前」

■タクシー利用

盛岡駅から約2km 約10分

■徒歩

盛岡駅から約25分



岩手大学 教育学部

〒020-8550 岩手県盛岡市上田3丁目18番33号
 TEL.019-621-6504 FAX.019-621-6600
 E-mail edu@iwate-u.ac.jp
 URL <http://www.edu.iwate-u.ac.jp/master/>

この冊子はグリーン購入法に
 基づく基本方針の判断基準を
 満たす用紙を使用しています。



平成30年度 岩手大学 教職大学院

大学院教育学研究科 教職実践専攻 (専門職学位課程)

高度な専門性と豊かな人間性・社会性を備えた
 力量ある教員を育む新しい大学院



国立大学法人
岩手大学

スクールリーダーと 即戦力の新人教員を 養成します

岩手大学大学院教育学研究科長 遠藤孝夫



岩手大学教職大学院は第二期生18名を受け入れ、2年目を迎えることができました。関係の皆様のご支援とご協力に心より感謝申し上げます。

教職大学院は、高度専門職業人としての教員を養成する専門職大学院です。具体的には、岩手県の学校教育を牽引するスクールリーダー(管理職及びミドルリーダー教員)や、即戦力の新人教員を養成します。そのために、教職

大学院の教員には、研究者教員だけではなく、学校現場や教育行政での実務経験が豊富な実務家教員も加えられています。連携協力校における実習として、教科指導のみならず、児童生徒の生活指導や学校の組織運営に関する実習が含まれていることも、私たちの教職大学院の大きな特徴です。

今後も、学校を明るく元気にする高度な力量を持った教員を養成してまいります。

専門的・実践的力量を 備えた教員養成を

岩手県教育委員会教育長 高橋嘉行

2年目がスタートし、2つの学年の院生35名が出そろい、ますます期待が高まります。教職大学院では、単に理論だけではなく、社会や学校現場に出ていろいろな経験を積むのがいいですね。教員一人ひとりの力を伸ばし、組織全体の体制を構築していくことによって子どもたちに教育の力を還元していく面でも大きな成果が得られることでしょう。

県教委としても大学院生の派遣や実務家教員としての人材活用や専門実習等学修環境のサポートを含めて主体的に関わっていく責務があると思っています。管理職をめざす人々には学校経営という視点で学んでもらいたいし、現場の中核的なリーダー教員になるような人、授業力を磨きスーパー教員になるような人材も派遣してまいります。

専門的・実践的力量やコミュニケーション能力を備え、新たな価値を創造する高い専門性をもった教員養成にこれまで以上に取り組んでいただくことにより、岩手の教育の充実という結果に確実に結びついていくものと期待します。



教育実践研究報告書のガイダンス



専門実習計画づくり



県教委での学校マネジメント力開発実習

>> 教職大学院とは？

本学では「教育学研究科教職実践専攻」が教職大学院です。

教職大学院は、近年の学校教育の課題が多様化・複雑化する状況の中で、高い専門性と実践力を身に付けた高度専門職業人としての教員養成に特化した専門職大学院です。これまでの教育系大学院(修士課程)との違いは、専門実習、模擬授業、事例研究など実践的な教育内容が充実し、理論と実践を融合したカリキュラムとなっているところです。

○教育学研究科(教職実践専攻)の入学定員等

入学定員 16名(うち、岩手県教育委員会から派遣される現職教員は8名)

○学位名称、標準修了年限等

標準修了年限は2年で、修了者には教職修士(専門職)の学位が授与されます。また、教育職員一種免許状の保持者には専修免許状が授与されます。

人材養成像

学校教育に関する「理論と実践の融合」の理想を掲げて、教職としての高度専門的・実践的力量を備えた高度専門職業人としての教員を養成します。

具体的には、学校教育をリードする専門的力量を備えた管理職及びミドルリーダー教員を養成するとともに、新しい学校づくりの有力な担い手となる新人教員を養成します。



学校マネジメント力開発プログラム



現職院生 大越 淳

学校教育に関する「理論と実践の往還」の理想の下で、研究科教員・実務家教員の講義や演習、知識や発想の豊富な学卒院生との討議を通して、日々切磋琢磨しています。学校マネジメントに関わる理論的なことや学校ビジョンの策定、学校評価の取組、いわての復興教育の実践等について知識を深めることができました。恵まれた環境の中で学ぶ機会をいただいたことに感謝するとともに、大学院2年目の学びを有意義なものにしていきたいと思っています。

授業力開発プログラム



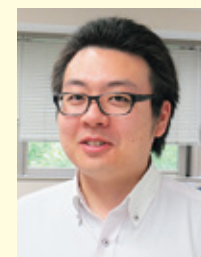
学卒院生 阿部 美郷

教職大学院で学び始め、早1年になりました。最初はすべてが手探りで、右も左もわからないまま講義や実習に臨んでいました。しかし1年生の後期に経験した附属幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校の専門実習で、それまで学んできた理論を、実際の教育活動に即して検討することができるようになりました。予期せぬ出来事や思い通りにはいかないことも現場ではあるけれど、目の前にいる子どもに確実に力をつけるため、日々理論や実践について、学びを深めています。



現職院生 高橋 康次

異校種の先生方、学卒院生の方々と共に学ぶことで、校種・教科を超えた横断的な視点から教科専門の知見を広げることができています。授業見学、研究会への参加、教育機関への訪問実習を通して、岩手の教育課題や国・県の教育ビジョンについて学ぶことができました。岩手のよりよい教育現場の実現に向け、教職大学院で学んだ多くのことを子ども達や先生方に還元することができるようにこれから考えていきたいです。



学卒院生 菅井 皓太

教職大学院は2年目となり新たなメンバーを迎え日々学んでいます。中でも授業力開発プログラムは総勢22名と一番人数が多いプログラムです。現職の先生方、学生が授業力の向上に向けて互いに学び合いながら取り組んでいます。指導と評価の一体化や授業構想と教材研究などこれまで以上に授業力として求められる理論を深め、総合実習や専門実習を通して実践力を高めています。これからの時代に求められる、教員として専門的な力を身につけることができる素晴らしい環境です。

子ども支援力開発プログラム



現職院生 信夫 辰規

教職大学院で1年を過ごし、講義や実習を通して多様な分野の知見が身についたと感じています。これまでの学校現場での「経験」と、1年間大学院で学んだ「理論」が結びつき、理論に基づく実践を試される2年目となります。震災から6年経ちますが地元沿岸部の子供たちには、まだまだ支援が必要だと感じています。専攻プログラムで学んでいる心理教育や相談員、支援員の実習を活かし、子供たちの支援につなげていきたいと思っています。



学卒院生 齊藤 裕太

私は、子ども支援力開発プログラム所属の齊藤裕太と申します。昨年度教職大学院に入学して、あっという間に1年が過ぎてしまいました。この1年間、私は教師を志す者として大きく前進できたのではないかと思います。教職大学院では、学卒院生と現職院生が混ざって話をする機会が多くあり、現場を経験しているからこそその話をたくさん聞くことができました。残り1年、さらに力を蓄え、来年度の現場に生かしていきたいと思っています。

特別支援教育力開発プログラム



現職院生 坪谷 有也

入学して1年が経ちました。今では、特別支援教育について他プログラムの院生と自然に話ができる環境になりました。大学院では、教育実践を理論に基づいて説明ができるよう附属特別支援学校での実践やそれに基づく熟識を重ねています。それゆえ、普段から自己の課題意識が問われ、2年間の成果をどのように学校現場に還元していくかという明確なビジョンも意識して学んでいます。2年目に入り、更に自己の課題に主体的に取り組んでいく所存です。



学卒院生 小山 聖佳

私たち学卒院生にとって、教授や現職院生や実習校の先生方から現場の実際について教えて頂けることは、とても良い刺激であり、日々の深い学びにつながっています。また、異なる校種の方々と議論することで、教育観を再考したり、新たな知見を発見したり、自分の視野を広げる機会を得ることもできています。様々な視点を交えながら、特別支援教育に関する理論と実践の往還を通して融合をめざし、「共に学び、共に育つ教育」の更なる発展に寄与できるよう、邁進し努めていきます。

4つのプログラム制

学修ニーズに応じて以下のプログラムを選択します。

① 学校マネジメント力開発プログラム (現職院生のみ対象)

学校経営と組織マネジメントに関する高度な専門的力量的の修得により、特色ある学校づくりをリードする人材(校長、副校長、指導主事及び主幹教諭等)を育成する。

② 授業力開発プログラム

教科等の指導を通して子どもたちに確かな学力形成を保障することができ、同時に地域における教科等の研修リーダーとしての役割も果たすことができる高度な専門的力量的を備えた人材を育成する。

③ 子ども支援力開発プログラム

いじめや不登校など、子どもたちの生活上・発達上の諸課題を的確に把握し、適切な支援ができる高度な専門的力量的を備えた人材を育成する。学校心理士の受験資格を得ることが可能。

④ 特別支援教育力開発プログラム

特別支援学校及び通常学校における特別支援教育を推進できる高度な専門的力量的を備えた人材を育成する。特別支援学校教諭専修免許状(知的障害者、肢体不自由者、病弱者)の取得が可能。

専攻共通科目(必修)

- ① 特色あるカリキュラムづくりの理論と実際
- ② 学習指導要領とカリキュラム開発
- ③ 学力の向上と学習意欲
- ④ ICT 活用教育の実践と課題
- ⑤ 学校カウンセリングの理論と実践
- ⑥ 通常学級における特別支援教育の実践と課題
- ⑦ 心理教育的援助サービスの理論と実践
- ⑧ 学校経営の実践と課題
- ⑨ 岩手の教育課題
- ⑩ 専門職としての教員の在り方とその力量形成

選択科目

学校マネジメント力開発プログラム

- ① 学校マネジメントの理論と実践
- ② いわての復興教育の実践と課題 など5科目

授業力開発プログラム

- ① 教科の指導と評価の実践研究
- ② 授業の構想と教材研究 など15科目

子ども支援力開発プログラム

- ① 子ども支援のための学校臨床心理学
- ② 発達援助の理論と実践 など6科目

特別支援教育力開発プログラム

- ① 特別支援学校の実践力I
- ② 通常学級における特別支援教育 など9科目

実習科目(必修)

学部段階の基礎的・基本的な教育実習(現職院生の場合は教職経験)を踏まえ、教科等の学習指導、生徒指導、学級・学校経営に関する高度で実践的な指導力の育成を目的とします。連携協力校、教育委員会、総合教育センター等で実施します。

リフレクション科目(必修)

学校現場での実習で得られる学校実践知を教育理論知と融合させて、教育課題の解決に資するための実践的力量的を育成するために、2年間を通しての必修科目として配置する科目です。

>> 時間割例(子ども支援力開発プログラム選択・学卒院生の場合)

		専攻共通科目					選択科目						
[1 年 次 前 期]		学修導入期・研究課題設定期					[1 年 次 後 期]		学修展開期・研究課題探究期				
曜日		1	2	3	4	5	曜日	1	2	3	4	5	
月		学習支援のための教育心理学	学力の向上と学習意欲		特色あるカリキュラムづくりの理論と実際		月	通常学級における特別支援教育の実践と課題	ICT活用教育の実践と課題		授業の構想と教材研究	学校カウンセリングの技法	
火		専門職としての教員の在り方とその力量形成	学校カウンセリングの理論と実践	子ども支援のための学校臨床心理学			火	学習指導要領とカリキュラム開発		発達援助の理論と実践			
水		岩手の教育課題		理科教育の実践と課題	心理教育的援助サービスの理論と実践	教科の指導と評価の実践研究	水	学校経営の実践と課題					
木							木	総合実習 (①学校マネジメント力開発実習 ②授業力開発実習 ③子ども支援力開発実習)					
金		教育実践リフレクションⅠ ①学校マネジメント力開発基礎演習 ②授業力開発基礎演習 ③子ども支援力開発基礎演習					金	教育実践リフレクションⅡ					



木曜日は自主的な
学びの時間を
確保しています。

木曜日は自主的な学びの時間を確保しています。

[2 年 次 前 期]

学修深化期・研究課題深化期

曜日	1	2	3	4	5
月	理論と実践の往還・融合による研究課題とその解決策の検証と深化を図っていきます。			生徒指導・教育相談の事例研究	
火					
水					
木	学校マネジメント力開発実習(4月、9月)、授業力・子ども支援力開発実習(6月)				
金	教育実践リフレクションⅢ				

[2 年 次 後 期]

学修完結期・研究課題総括期

曜日	1	2	3	4	5
月	研究課題のまとめを行い、「教育実践研究報告書」を作成します。 				
火					
水	生徒指導・教育相談の理論と実践				
木	授業力・子ども支援力開発実習(11月)				
金	教育実践リフレクションⅣ				

理論と実践の往還・融合による研究課題とその解決策の検証と深化を図っていきます。

研究課題のまとめを行い、「教育実践研究報告書」を作成します。

岩手大学教職大学院 修了要件単位表	専攻共通科目 (必修)	選択科目			実習科目 (必修)	リフレクション科目 (必修)	計
		プログラム別必修	プログラム別選択	科目選択			
	20	4	4	6	10	4	48

>> 履修スケジュール

1 年 次												
学 卒 院 生 の 場 合	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	専攻共通科目(6科目・12単位)						専攻共通科目(4科目・8単位)					
	プログラム別選択科目(8科目開講)						プログラム別選択科目(12科目開講)					
	 特別支援教育力開発プログラムの 実習は、他のプログラムとは別 に行います。						授業力・子ども支援力・学校マネジメント力開発実習 (1日／W、計160H)※附属校 特別支援教育力開発実習Ⅰ (学校マネジメント力・授業力開発実習) (集中、4W)※附属特支					
	教育実践リフレクションⅠ						教育実践リフレクションⅡ					
	授業力開発基礎演習 (2H／W、計10H)		子ども支援力開発基礎演習 (2H／W、計10H)		学校マネジメント力開発基礎演習 (集中、計10H)							
現 職 院 生 の 場 合	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	専攻共通科目(6科目・12単位)						専攻共通科目(4科目・8単位)					
	プログラム別選択科目(8科目開講)						プログラム別選択科目(12科目開講)					
	 学校マネジメント力開発実習 は全員が行います。					学校 マネジメント力 開発実習 (集中、計40H) ※県教委及び 総合教育 センター等	子ども支援力開発実習(1日／W、計60H) ※附属校で実施 特別支援 教育力開発実習Ⅱ (授業力開発実習) (集中、2W) ※附属特支					
	教育実践リフレクションⅠ						教育実践リフレクションⅡ					

		2年次											
学卒院生 の場合		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		プログラム別選択科目(10科目開講)						プログラム別選択科目(5科目開講)					
		学校マネジメント力開発実習(集中、計40H)※公立連携校						授業力・子ども支援力開発実習(集中、計80H)※公立連携校					
		特別支援教育力開発実習I(子ども支援力開発実習)(集中、6W)※附属特支(一部公立連携校)											
		教育実践リフレクションIII						教育実践リフレクションIV					
現職院生 の場合		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		プログラム別選択科目(10科目開講)						プログラム別選択科目(5科目開講)					
		学校マネジメント力開発実習(集中、計40H)※県教委						子ども支援力開発実習(集中、計60H)※附属校					
		特別支援教育力開発実習II(子ども支援力開発実習)(集中、5W)※附属特支(一部公立校)											
		教育実践リフレクションIII						教育実践リフレクションIV					

2年間の研究成果を「教育実践研究報告書」にまとめます。発表会も行います。



Q A 1 教職大学院での実習は、大学生の教育実習と何が違うの？

大学生の教育実習は教員免許を取得するためのもので、授業を中心に実習しています。

教職大学院での実習は、授業を含めて、学校での業務全般を実習します。校務分掌や学級経営、教育相談等の多様な業務を実習内容に含みます。

Q A 2 マネジメント力開発実習とは、どんなことをするの？

学校経営や教育行政にかかわる実際的な業務内容を実習します。学卒院生は、連携協力校での校務分掌を実習内容に含みます。現職院生は、教育委員会や教育センターでの事務局業務や研修の運営業務などを実習内容に含みます。



盛岡第一高等学校

Q A 3 授業力開発実習とは、どんなことをするの？

授業づくりを実習します。

単元の指導計画を立案し、授業実践とその評価まで行います。その中で具体かつ有効な授業方法を開発、検証します。



仁王小学校

小学校	岩手大学教育学部附属小学校 盛岡市立仁王小学校 盛岡市立城南小学校 盛岡市立桜城小学校 盛岡市立厨川小学校 盛岡市立仙北小学校 盛岡市立緑が丘小学校
中学校	岩手大学教育学部附属中学校 盛岡市立下橋中学校 盛岡市立下小路中学校 盛岡市立上田中学校 盛岡市立河南中学校 盛岡市立大宮中学校 盛岡市立黒石野中学校
高等学校	岩手県立盛岡第一高等学校 岩手県立盛岡第三高等学校 盛岡市立高等学校
特別支援学校	岩手大学教育学部附属特別支援学校

Q A 4 子ども支援力開発実習とは、どんなことをするの？

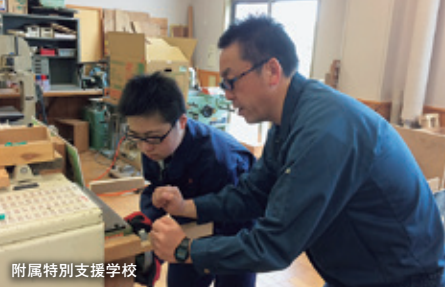
教科指導以外の教育活動(学級経営、進路指導、教育相談等)を実習します。児童生徒の状態を把握し、その課題解決を目指した具体かつ有効な支援方法を開発、検証します。



附属小学校

Q A 5 特別支援教育力開発実習とは、どんなことをするの？

特別支援学校における授業づくりはもちろんのこと、教科指導以外の教育活動、通常学級への巡回相談等を実習します。その中で、具体かつ有効な支援方法を開発、検証します。



附属特別支援学校

Q A 1 教職大学院での授業の特徴は何ですか？

教職大学院では「理論と実践の融合」をめざします。そのために、理論面を研究者教員が担当し、実践面を実務家教員(小・中・高・特支校長経験者、教員経験者)が担当します。ほとんどの科目をチーム・ティーチングで実施し、演習を重視します。

Q A 2 現職院生と学卒院生は一緒に授業を受けるの？

原則は一緒です。授業中の協働や話し合いなどを通じて、相互に学びあい、高めあっていきます。

Q A 3 教職大学院の指導体制は？

専任教員として研究者教員8名と、実務家教員7名が配置されています。研究者教員は、学校経営学、教育方法学、教科教育学、学校臨床心理学、特別支援教育学等を専門としています。加えて、教育学部所属の22名の研究者教員が教育学部から兼任教員としてサポートします。



Q A 4 修士論文は書くの？

修士論文は書きません。そのかわりに学校現場に即したテーマで、実践に基づいた研究をし、その成果を「教育実践研究報告書」としてまとめます。

報告書の作成は、テーマに応じて研究者教員と実務家教員と院生がチームを作って進めます。

Q A 5 「教育実践研究報告書」はどうやって書くの？

一人一人の院生を、研究者教員と実務家教員がチームでサポートします。教育実践研究の進め方や方法などを指導するゼミの時間を設定します。



安心して学修に専念できます。



Q A 6 どんな施設で学修するの？

教育学研究科棟という教職大学院専用の施設があります。院生室では一人一台のパソコンが貸与、無線LANも完備。演習室には電子黒板等のICT機器も備え、いつでも活用できます。

Q A 7 教員採用試験での特例措置とは、どのようなこと？

岩手県の教員採用試験に合格し、その上で教職大学院に進学した学卒院生や在学中に合格した学卒院生は、大学院修了(最大2年間)まで名簿登載期間を延長することができます。なお、合格した出願区分の学校種・教科等の専修免許の取得が条件です。

Q A 8 奨学金制度とは、どのようなこと？

学卒院生を対象とした教職大学院奨学金の貸与制度があります。岩手県の教員に採用され、5年間勤務すれば貸与された奨学金は返還免除となります。

入学者選抜方法の概要

- 一般学生対象
筆記試験と口答試験及び学修・研究の構想レポート、出身大学(学部)の成績証明書を総合して判定します。
- 現職教員対象
学修・研究の構想レポート、教育活動・実践履歴書及び口答試験を総合して判定します。なお、現職教員とは、現に教職にある者又は教育関係機関の職員であって、岩手県教育委員会から派遣される予定の者とします。

